

敵

五年

画数 15
筆順

ナ ヤ 敵
テ キ 敵
カ タ キ 敵

成り立ち

「皇帝」の「帝」と「口」とで、「皇帝の命令」という意味を表した「帝」と、「攻める」という意味をもった「父」とを組み合わせて作った字です。

「皇帝（王様）の命令で攻める相手」という意味の字で、「攻める相手」のことを表した字です。

ふつうには、戦争や試合などの「相手」という意味に使いますが、特に、「相手とするのにふさわしい相手」「五分五分の力をもった相手」の意味に使います。

また、「うらみのある「かたき」という意味にも使います。

「帝」は、「天帝」のことで、天の神を表した字ですが、今は、「皇帝（王様）」の意味に使われる。」

使い方

▽ぼくらの野球チームはとても強くて、このあたりのチームで、ぼくらに匹敵するチームは一つもありません。ぼくらのチームは天下無敵です。

▽天文二二（一五五三）年、武田信玄は、宿敵上杉謙信と、川中島で戦いました。戦いは五回に及びましたが、この強敵どうしは、なかなか互いにゆずりませんでした。

熟語例

- ▽匹敵（力が五分五分で、同じくらい強いこと。）
- ▽無敵（強くて、五分五分に戦える相手がいないこと。）
- ▽宿敵（長年の敵）
- ▽強敵（強い敵、強い相手）
- ▽敵対（敵として対立すること。「なぜか、あの人はぼくに敵対するようなことばかりする」などというふうにつかいます。）
- ▽敵視（敵と見て、にくむこと。「どうか、わたしをそんなに敵視しないでください」などというふうにつかいます。）

統

五年

画数 12
筆順

ナ ヌ 統
ト ウ 統
ス イ ベ ル 統

成り立ち

「子が生まれ出る形」を表した「去」と、「成人」の形を表した「儿」とを組み合わせた「充」は、「赤ちゃん」が成人することを表した字で、「りっぱになる」意味の字です。

「去」と「糸」とを組み合わせて作った字で、「細い糸を一つにまとめて、太いりっぱな糸にする」ことを表した字です。

「一つにまとめる」という意味に使われます。例「統一、統括、統合、統治」。

また、「一つづきになっているもの」という意味にも使われます。例「系統、血統、伝統」。

使い方

▽戦国時代に、天下を統一しようとした国主は、何人もいました。しかし、実際に天下を統一するのに功績があったのは、有名な織田信長、豊臣秀吉、徳川家康の三人です。

▽日本には、伝統のある文化がたくさんあります。歌舞伎もその一つです。近ごろでは、外国の人々も、日本の伝統ある文化を知りたがるようになりました。みなさんも、これからは、外国のお友だちに、日本のことを紹介してあげてください。

熟語例

- ▽統一（ばらばらのものを一つにまとめあげること。）
- ▽統括（べつべつのものを一つにまとめること。）
- ▽統合（いくつものものを一つにまとめ合わせること。）
- ▽統治（統べ治めること。主権者が、国や人民を治めること。）
- ▽系統（一つづきになって、順序だててならんだもの）
- ▽血統（一つづきになった、血のつながり）
- ▽伝統（一つづきに受けつがれたしきたりなど）